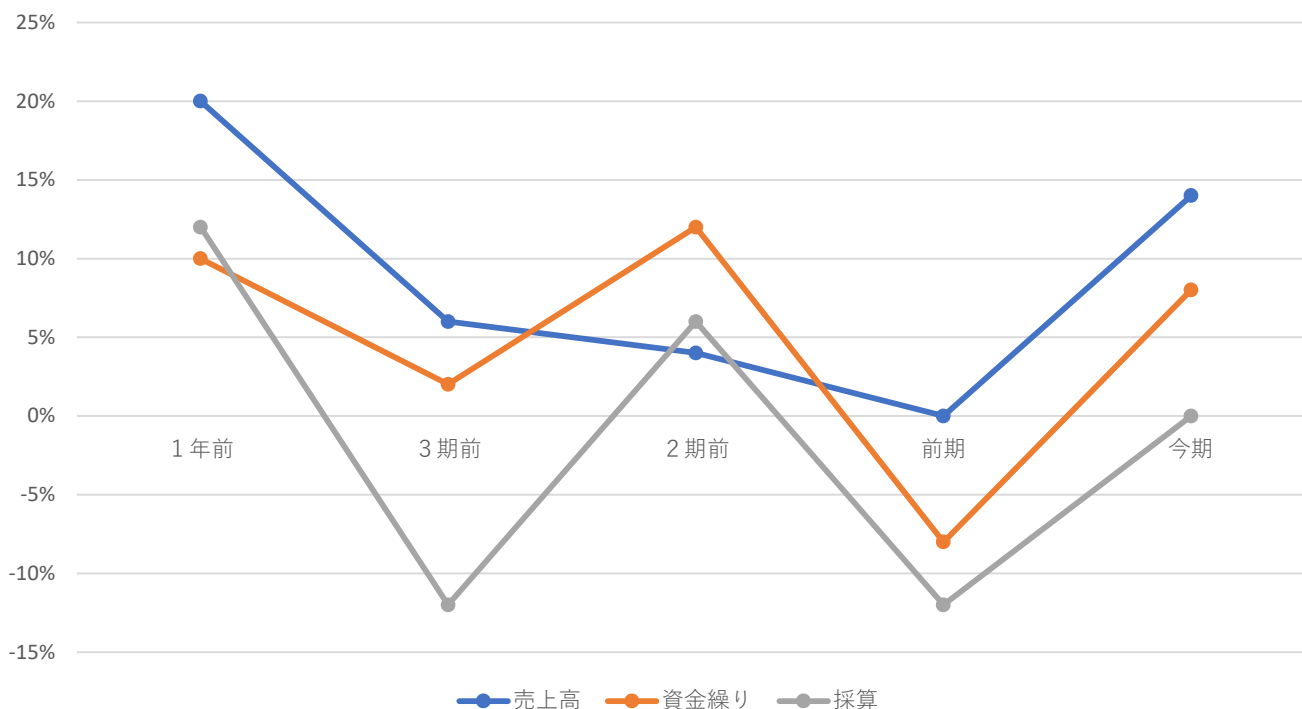


## 景況項目の推移 DI値（全体）



今期（令和6年4月～6月）の景況調査の結果は、全体としては、売上高は**14.0**ポイント、資金繰りは**8.0**ポイント、採算は**0.0**ポイントで、前期の調査（令和6年1月～3月）と比較して、売上高、資金繰り、採算のすべてのDI値が大きく改善した。

業種ごとでは、売上高は建設業、製造業、小売業、サービス業のすべてで増加し、特に建設業が**25.0**ポイント、製造業が**20.0**ポイントの増加が目立った。資金繰りは小売業が**0.0**ポイントで不変だった以外は、好転しており、サービス業が**16.7**ポイント、建設業が**12.5**ポイント、製造業が**10.0**ポイントの好転であった。採算は、建設業が**25.0**ポイントの好転、製造業が**20.0**ポイントの好転であったが、サービス業が**-25.0**ポイント、小売業が**-5.0**ポイントの悪化であった。売上高、資金繰り、採算ともに、建設業の増加や好転が目立った。

来期の見通しは、全体としては、売上高が**12.0**ポイント、資金繰りが**14.0**ポイント、採算が**6.0**ポイントで、増加や好転の見通しであるものの、前期の調査と比較して、増加や好転と回答した割合が少なくなっている。特に、サービス業で減少や悪化と答えた割合が多かった。

今期の業況に関しては、全体では、「ふつう」と回答した事業者が最も多く、次いで「良い」が多くなっており、前期の調査と比較して、「悪い」が減少した。従業員数に関しては、全体では、「適正」と回答した事業者が最も多く、次いで「不足」が多かった。「過剰」と回答した事業者はいなかった。